

晴れやかに 華やかに 高瀧神社秋季例大祭

加茂里山通信

平成28年
秋号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部
編集長 征矢貞造



たくさんの方が参拝に訪れました



宮出ししていざ出陣!



長南紅古連の見事な演舞



弓を携え矢を背にこちらもいざ!

10月16日(日)に高瀧神社(平田常義宮司)の秋季例大祭が執り行われました。日中汗ばむくらいの晴天に恵まれ、多くの参拝客でにぎわいました。今年には神社下の交差点で「長南紅古連」の演舞が披露され、その見事な動きに多くの人が魅了されました。祭りに彩りが添えられ華やか

かさが増しました。白毛と黒毛、栗毛の3頭の馬の背にまたがり流鏝馬の奉納もありました。小さな子供達には出店のほうが魅力的なのはいつの時代でも同じです。午後2時過ぎに神輿が階段を降り始めると、みんなが一斉にカメラのシャッターを切り祭りは最高潮に達しました。8月後半から長く続いた雨模様の天気もここにきて秋晴れの空高い日が続くようになりました。風もなく暖かく快晴の絶好の祭り日和となり、多くの人が心地よく祭りを楽しむことができました。恒例のお祭りですが、昔からの「加茂のまち」は形を少しずつ変え、世代を超えて、これからも長く受け継がれていくと思います。

(征矢里山通信員)

面足神社例祭 今年も子ども相撲開催される

富山地区新井の面足神社の例祭が9月18日に行われました。ここは市原市でも数少ない土俵のある神社です。御祭神は面足之尊(オモダルノミコト)。宮司



はっけようい!

いわく、美男美女の完成された神であり、新井地区の方々もそういう恩恵を受けているだろうとのこと。

午後から奉納相撲が行われました。昔は多くの大人たちが奉納相撲を行っていましたが、今は子供相撲に変わってしまいました。役員の中には、若い頃にここで相撲をとっていた人もいました。

旧富山小学校のPTAの方々の協力を得て、会場には老若男女が集まりました。微笑ましい取組もありました。相撲を知らない小さな子がみつくばかりであったり、女子との取組を行う男子が最後に力を抜いてあげる優しさなど。みんな景品をいっぱい貰って喜んでいました。



終わりにみんなでパンザイ!

今後の課題としてはやはり参加者が減少していることです。それでもまだ、境内で遊ぶことがなくなったことな時代に、地域の人が集まって子供相撲が続けられていることは素晴らしいことだと思います。これからも子供たちの声が境内にこだまするように続けていってほしいと思います。

(矢代里山通信員)

市内初の救急救命隊誕生!

9月27日に、市内では初となる救急救命隊組織「高瀧救友会(宮原誠一会長)」が発足しました。以前に紹介したNPO法人「南市原夢街道」の中の組織の一つとして誕生したものです。22名(男性19名、女性3名)からなり、平均年齢67.2才。全国救急救命士教育施設協議会認定インストラクターの増茂誠一さんを講師に迎え、4月から計5回延べ12時間の講習を受け、さらに認定試験を受けて全員が見事に合格。この日普通救命講習修了証と全国救急救命インストラクター



いよいよ活動開始です

資格認定証の伝達式を行い、合わせて会の発足となつたわけです。伝達式では講師からそれぞれのの方に短く的確なコメントがあったり、受け取る側からも一言あつたりと終始和やかに行われました。

- 1 高瀧救友会の基本方針は次の3つです。
 - 1 地域の人命を救助する。
 - 2 旧高瀧小学校を拠点に、救急救命を通して地域、職場、学校を中心に社会貢献の一環として活動する。
 - 3 「心肺蘇生法」の技術を学び、命の尊さに対する意識向上を図る。
- そして活動内容としては
- 1 地域の救急救命活動に寄与する。
 - 2 地域・職場・学校で「心肺蘇生法」に関する指導や普及活動をする。
 - 3 救急専門医や救急救命士などからの研修を受けると共に指導法検討会を実施する。

高瀧救友会では早速第1回目の活動として、10月22日に国分寺台小学校に11名が指導に行くことがとしています。

決まっています。講師の増茂さんからはこの日の門出にあたり、「救命という事を市内に広めていって、市に貢献してほしい。子供達の心に救命を伝授していただきたい」とはなむけの言葉が贈られました。これからの活躍が期待されます。(征矢里山通信員)

みんなで種をまきました



春の菜の花畑が楽しみです

9月24日に「花プロジェクト2016」として恒例の菜の花の種まきが小港鉄道南部沿線で行われました。今年は例年になく9月は雨ばかりで晴れ間がなかったため、草刈



お母さんと一緒に

昭和村文化祭

日時 10月30日 9:15~14:30
会場 市原市万田野 社会福祉法人 昭和村
内容 五月流千都勢会舞踊
加茂学園吹奏楽部発表
加茂地区内保育園、加茂学園児童・生徒の作品展示
フリーマーケット・バザー等
VONDS 市原も来園します。

養老祭開催される

迫りくる町会の未来像

養老町会（鈴木文夫町会長）では養老祭実行委員会（佐藤辰弘実行委員長）主催の第1回養老祭を9月18日に行いました。町会の一つの組織である養老未来研究会より提案されていたものを評議員会で実行することを決定。実行に当たっては町会内にある様々な団体の長を実行委員として実行委員会を構成し、副町会長が実行委員長となつて会議を重ねました。そして消防団や子安講組織など各種団体にはそれぞれ責任を持つてやる仕事が割り振られ準備が進められました。

加茂地区のどの町会にも当てはまることですが、少子高齢化は比較的戸数や人口の多い養老町会でも例外ではなく、10年後、20年後を考えた時、戸数や人口の大幅な減少が考えられます。養老未来研究会で市の統計などから4、5年前に年代別の人口構成を調べてみたところ、若い世代の人口が極端に少なく、当時の0歳から6歳に至る間に子供が全くいないということもわかりました。



みんながバザーの品を出してくれました

また、養老町会では村組織の集まりから構成された歴史的背景もあり、東原、南原、西原と3地区からなり、その交流もありませんでした。数少ない子供たちが将来この地に残る可能性は低く、同じ町会内でもお互いに知らない人が多くいるというのが現状でした。みんなが顔を合わせて、1日を楽しく過ごし、互いの交流を図り回を重ねていくことが、地域に対する愛着と理解を深め、一体感を生み出していき、将来に対する布石にもなることを考えました。

まずは開催費の捻出から

開催には費用がかかります。まずその費用を作り出すと、町会独自の資源回収を始めたのが3年ほど前です。3年経って13万円ほどになりました。さらに費用の足しにとバザーも実施することにしました。（当日8800円の売り上げがありました）また養老祭では将来起こるかもしれない災害時対策として炊き出し訓練も兼ねようということ、町会に配備されている大釜でご飯を炊きおにぎりを作ることも提案されました。



隣近所和気あいあいで

里山からの発信

そして翌日

雨模様ということで会場となった旧高滝小の体育館を使うことを決定。スタッフの実行委員は10時に集合して会場作りをし、それぞれが責任を持った仕事に着手。第1分団は焼きそばとバーベキュー担当、カラオケの機械とビールサーバーの運搬と釜飯を炊くのは養老東朋会、おにぎりを作るのは子安講組織2つと若草会、それに南原の婦人たち、ビンゴゲームの担当は西和会、バザーとカラオケ担当は老人会とカラオケ同好会、それに子供会も加わり、それぞれが同時進行的に行動開始。釜飯は11時半までに炊き上げて欲しいとおにぎり担当の婦人たちの要請で、朝9時に別なところに集合し8升の米を研ぎそれから会場に移動。その1時間前には雨に濡れてはと簡易テントを張り、マキを確保する東朋会会長の姿も。バーベキュー担当の1分団も前日に野菜のカンテングを済ませ、こちらもテントを張りスタンバイ。独自に自分たちのアルコール類も持ち込み気分十分。その目の前に生ビールのサーバーが置かれ

いよいよその気に。前日に仕込んだ汁物も火を入れて味噌をどぎ入れ準備万端開始時間の12時近くなると町会の人たちが集まってきました。町会長の挨拶、来賓の祝辞、そして実行委員長の乾杯の音頭でスタート。おにぎりが出来上がり、焼きそばがすでにパツパツされていて配られ、さらにバーベキューが出来上がったところから運ばれて、生ビールがあり、ソフトドリンクのペットボトルがあり、吟醸酒も5本あり、しばし飲食と歓談に20年近く、集まっては酒盛り時に鍋飯を炊いていた養老東朋会も、8升の米の前に少し腰が引けていたもののなんと炊き上げ、女性たちが握ったおにぎりは230個くらい。美味しいとの声があちこちから上がり、炊き出し訓練も上々の出来。



ふっつけ本番の大釜飯炊き

会場には予想を超えた120人近くが集まり、お互いに初顔合わせという人も多く、年配者に聞いてみたら半分以上知らないとの返答も。少ししてから各種団体のメンバー紹介。まずは子供会から。4人の子供たちが自己紹介。そして他の団体もみんなが前に立ち自己紹介。「あそこの嫁だったのか」とか「あそこの孫か」という声があちこちから。

紹介も終わりアルコールも回り始めた頃に、紙飛行機をみんなで作る。子供も大人も、特に大人たちが真剣に取り組み、試験的に飛ばしたりそれを修正したり。みんなの作った紙飛行機を一度全部集め、消防



今回大活躍の消防第1分団

団を中心に飛ばす人たちが7、8人が飛ばし始めました。

体育館の端から飛ばし、距離の出たものから上位6人に賞品を贈呈。紙飛行機には名前を書いてももらってあったので誰のものかはすぐに判明。案外適当に作ったものが飛んだりと意外性たっぷり。そしてビンゴ大会。少ない予算から苦労しながら30人分くらいの賞品を買い出し、それぞれの担当を決めて万全の態勢で臨んだ西和会、絶妙な司会進行と共にビンゴならではの一体感が会場を包み込み、みんなが自分のカードに集中。そして最後にカラオケ大会。3時間はあつという間に過ぎ、締め言葉の後でこれから片付けを行いますとのアナウンスに、みんなが一斉に後片付けを始め、短時間で会場の片付けは終わってしまいました。



大釜からまさに炊き出し

多くの差し入れや協力が

今回多くの方からの差し入れや協力がありました。炊き出しをすると言ったらすぐにお米の提供を申し出てくれる人がいたり、知らない間にマキを置いていってくれる人がいたり、50年ものとも60年物ともいえる炭を提供してくれたり、缶ビールや酒、それにソフトドリンクもほとんどが提供品であつたりして、経費を抑えることができました。豚汁のようなものも実はイノシシ汁で、運とタイミングが悪く町会の檻に入ってしまったイノシシは、地産地消に貢献してくれました。（ただこれは食べたことのない人がほとんどだろうということで、終わるまで余計なことは言わないままでした）

後日反省会を行いました。各実行委員からは「やっつてよかった」という声が多く出され、次回のための反省点がいくつも出されました。実行委員長からは「ねがいの言葉とともに、一回目にしては上出来だったので」との総括もありました。

（征矢里山通信員）

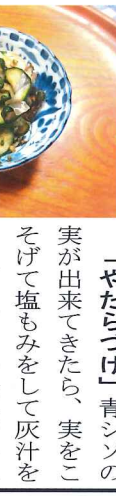
里山の「ご馳走」秋

山ではキンモクセイが香り、「きのこが出るにはもう少し寒くないとなあ」と時期を待ちわびている人の話が聞かれます。里芋も大分大きくなってきましたが、一度は食べたのが「ずいきのみそ汁」です。ずいきはあくが強いので、皮をむくときは強い捨てて手袋を付けしないと手が真っ黒になります。みそ汁で食べるには前の晩に皮をむいて茹でてから、みそで薄めに味をつけ一晩置きま



「ずいきのみそ汁」

す。朝再び火にかけて、味をととのえれば出来上がり。酢の物は茹でてから甘酢に漬けます。時間がたつときれいなピンク色になります。



「やたらづけ」青シソの実が出来てきたら、実をこそげて塩もみをして灰汁をと、きゅうり、茄子、みょうがの刻んだものと一緒に漬けたお漬物。昔は残ったやたらづけをさらしの袋に入れて、味噌に漬けてみよ

うがはいっぺんに出るのので薬味だけでは食べきれず、揚げと薄味に煮てから卵とじにしたりしますが、保存にはきれいにしてから半分に切り、さっと熱湯にくぐらせてから甘酢に漬けます。これもしばらくすると、きれいなピンク色になります。焼き魚の添え物などにピッタリですね。もうしばらくするときの顔を出し、自然薯も大きくなり、里山の御馳走を求めて山へ出かけていく人も増えると思えます。イノシシに負けないように怪我のないように収穫の秋を満喫してください。



「みょうがの酢漬け」みょうがはいっぺんに出るのので薬味だけでは食べきれず、揚げと薄味に煮てから卵とじにしたりしますが、保存にはきれいにしてから半分に切り、さっと熱湯にくぐらせてから甘酢に漬けます。これもしばらくすると、きれいなピンク色になります。焼き魚の添え物などにピッタリですね。もうしばらくするときの顔を出し、自然薯も大きくなり、里山の御馳走を求めて山へ出かけていく人も増えると思えます。イノシシに負けないように怪我のないように収穫の秋を満喫してください。

（大曾根 R 里山通信員）

アートミックス

前号では人口6300人の過疎地ながら全国から注目を集めている、徳島県神山町の取り組みを紹介しました。3人の芸術家を滞在させ、地域住民との交流の中から作品制作をする「アーティスト・インレジデンス」。パン職人や飲食店を開きたい若者を取り込む「ワーク・インレジデンス」。そんな活動から生まれた「サテライトオフィス」。

地域の住民は、過疎は過疎として受け止め、今の暮らしを楽しむことで、明るい過疎の村を作っていくという「創造的過疎」なんて言葉まで作り、前を向いた生活をしています。

では南市原の「創造的過疎」とはどんな形なのでしょう。というところで前号は終わっていますが・・・

アートミックス開催

来年開催される芸術祭は4月8日(土)から5月14日(日)までの37日間とされました。前回が52日間の開催でしたから、15日の短縮日程です。名称もいつの間にか「国際」という文字が外れ、予算も大幅ダウン。特に作品製作費が大きく削られそうです。

総合ディレクターの北川フラム氏も市との円満話し合いの中で一歩引く体制になり、各会場は若手のアーティストが主体となって作品展示に当たる見通しとなりました。もともと北川氏は「若手有望株にエリアの担当をさせていきたい」と言っていましたから、これを機会に若い才能が開花していけば新しい取り組みとなりますが、先行きはまだ見えません。ちなみに北川氏は、2017年に長野県大町市で北アルプス国際芸術祭(6月4日から7月30日まで57日間)、能登半島の最先端にある石川県珠洲市で能登国際芸術祭(9月3日から10月22日まで50日間)という新しい芸術祭に取り組みます。

市原市にとって最悪な結果は、越後妻有で50万人、瀬戸内で150万人の実績を残した北川氏が、北アルプスや能登半島で取り組む芸術祭が成功して、市原はダメだったという結果でしょう。

市原市の小出市長は3回の開催を明言していますが来春のアートミックスの結果が、例えば来場者数で延べ8~9万人台であったなら、先行きに不安を覚えます。逆に、30万人の来場者があったとしたらどう

でしょうか。圏央道でつながる、木更津、浦各市にも連係を呼びかけ、もっと大きな芸術祭に育っていくような気がします。3回目の開催は、2020年、東京オリンピック、パラリンピックの年に当たります。成田空港と羽田空港の中間地点にあるこの地で50万規模の国際芸術祭が開催できるという希望が持てるのではないのでしょうか。

十日町市「ARTOYAMA」

この秋、12月11日(日)までの土日祝限定で、小湊鉄道の朝原駅とJR久留里線の久留里駅を結ぶバスが走っています。亀山ダムを経由して、これまで交通の連絡がなかった地域をつなぎ、紅葉の広がる自然を観光振興につなげる試みとなります。この事業は君津市と連携して、国の地方創生事業を活用したものです。東京、神奈川の方にとっては市原市も君津市も関係なく、「紅葉を楽しみたい」という感覚でしょうから、新しい試みとして成果が上がることを期待します。また鉄道に乗るといふバスツアーが行われています。牛久から里見。あるいは牛久から山田という区間で、普通の列車に乗るのだけれども、平日でも40人、休日ですと80~100人も人が牛久駅を利用しています。参加する方は東京や静岡、名古屋からだそうです。これが毎日の事



「野菊」

ですから延べ人数に直すとすごい数になります。もともと小湊鉄道はテレビの旅番組でも取り上げられていました。前回のアートミックス以降、トロッコ列車の効果もあってマスコミへの露出が増えています。加茂地区全体もテレビの取材やコーシャルの撮影など度々マスコミの方が利用していますが、今年は2本の映画の撮影場所にもなりました。間違いなく、南市原は注目されてきています。

SATOYAMA'S 芸術祭

最近、十日町市に芸術祭の視察に行った頃のことを思い出しています。当時、市原市議会で特別委員会

を組織して、圏央道が通ること、インターができることを起点に、過疎が進む南市原の活性化策を探していました。いくつもの田舎町に向いて地域の活性化について調べてみました。そんな中、「新潟で面白い取り組みをしている」という情報を得て、初雪が降る越後に向かいました。正直「芸術祭で地域が活性化するのだろうか?」という不安を持ちながらの視察でした。

十日町市で行政の方の説明を聞きました。資料も見ていただきました。「挨拶をいただいた議長さんは「わが市の自慢の芸術祭です」と晴れやかにおっしゃりました。しかし、それでも「芸術祭で活性化」には疑問符が付いたままでした。常設展示されている作品をいくつか見ることがなっていました。



「ホトトギス」

作家のものではない。作品が置かれた棚田の持ち主の方は最後まで嫌だと言っていたそうです。大戦を経験された新潟の高齢者とロシア人作家です。なんとなく嫌だという気持ちが理解できました。説明を聞くのが嫌だと言っていた棚田の持ち主が芸術祭の後は「長生きして、やめようと思っていた田んぼももう少し頑張ってみよう」と考え方が変わったそうです。次の作品会場で、正直「やられた」と思いました。作品の古民家は何人かの高齢の方が待っていてくれました。行政の方が「千葉の市原から来た議員さん」と紹介してくれました。出迎えていただいた方に「遠くからご苦労さんです」と言われたかと思うと「オラア芸術の事はわかんねえけど」とはじまり「オラア大工だけ、ここの足場を組んでやった」そばにいたおばあちゃん「わたしやおにぎりや漬物を差し入れてやった。うまいって言われたよ」などと一生懸命に当時のことを話してくれました。どの顔も生き生きと輝いていました。過疎と高齢化がとんでもなく進んだ地域の高齢者が、自分の地域の自慢を生き生きと話す姿に感動すら覚えました。

芸術作品には申し訳ないですが道具だったのではありません。芸術祭を通して地域にもたらされた地元の自慢

そこから生まれる地域への愛着。それが芸術祭の存在価値なのだろうと思いました。

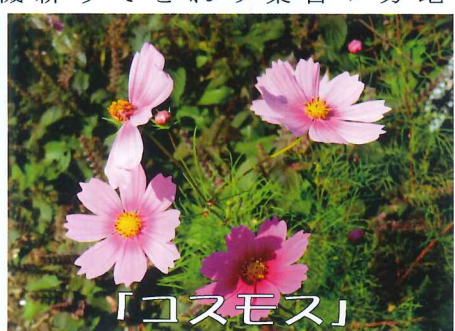
加茂の「創造的過疎」

9月24日に行われた菜の花の種まきイベントは今年で12年目となりました。応募されたボランティアの方は800人を超え、地元や役所の関係者を加えると1000人を超える一大イベントに育きました。来年の春には、例年通りの菜の花と桜の競演が楽しみです。

4月から始まるアートミックスも当然?大成功を収めるでしょう。里山の中を走るトロッコ列車と相まって多くの観光客が訪れ、そこには生き生きと地域を自慢する地元の方々。

では、アートミックスや菜の花の種まきイベント、あるいはもうすぐ決定する地域おこし協力隊で加茂の過疎や少子化、高齢化が解決するのでしょうか。これは単純に言えば地域を元気づけるためのイベントです。

少子化と言えは東京の方がよっぽど深刻です。なにしろ出生率が1.1程度。地方からの流入人口でなんとか都市機能が保たれている状況と違っていいでしょう。高齢化は日本全体の問題です。しかし、加茂地域の高齢化は都市部のそれとは少し違っています。長寿命と言われる世



「コスモス」

の中で、加茂地区のご高齢の方は健康寿命のレベルが高いと言えます。農作業や地域の草刈りなどで鍛えられた体力がものを言っているのではないのでしょうか。都会では耕す畑も草刈り機を使う場所もありませんから。

これから日本全体の人口が減少していくと言われています。統計資料は調べていませんが、関ヶ原の戦いのころの人口は3000万人程度。明治維新のころは8000万人。高度成長期の昭和で人口が増えて1億2000万人に達したというお話を聞いたことがありますが、少子化に手を打っていないければ40年先には日本の人口が8000万人程度まで減るといふ予想が



「サルビア・インディアン・スパイヤー」

されています。少子化も高齢化も過疎も、なにも加茂地区だけの問題ではありません。加茂地区に少子化が早くみられているだけではないのでしょうか。違う言い方をすれば、過疎と少子高齢化の「先進地」なのです。先進地である加茂地区の取り組みは、全国の先駆けになります。また、全国の自治体のほとんどが人口減少や少子高齢化の問題を抱える中で即効性のある解決策がないことも事実です。ひとつずつの取り組みを重ねて、少しずつ明るい兆しを積み重ねる着実な歩みが必要だと思います。

次号では市原市がこれから取り組む政策などを絡めながら地域の活性化策を紹介したいと思います。(大曾根↑里山通信員)

人と環境が一体となって大切な未来へ

自然環境と人間との調和を目指して

杉田建材株式会社

本社 市原市万田野 26 TEL 0436(96)131
市原支店 市原市惣社1-1-22 TEL 0436(24)051
南総支店 市原市牛久450-1 TEL 0436(50)011

URL <http://www.sugita-group.com/>

今年も楽しい 加茂地区敬老会

9月25日、加茂地区敬老会が加茂公民館で開催されました。招待された方は1500人程です。今回の会場への参加者は300名程でした。富山地区、里見地区、白鳥地区、高滝地区から集まって来ていました。

式典が行われ、その後富山地区炭焼き音頭の会の方々の寸劇と踊りから始まりました。地域のネタを織り込んだ寸劇で観客を喜ばせました。富山小学校の頃に運動会で踊られていた炭焼き音頭でしたが、今回の敬老会で発表の場を得たという事でした。次に健康体操が行われ、椅子に座っていても出来る簡単な体操を講師とともにみんなでやりました。日頃、野良仕事はしっかり行っている人も、じっくりと体操（準備体操）をしたことがない人がほとんどのようでしたが、いつもと違う運動をすることは気持ち良さそうでした。



芝居の度胸はアートミックス出演からかな

午前のプログラムが終了し、休憩・食事を含み、午後より加茂学園の生徒さんによる吹奏楽演奏と合唱と続き、自分達の孫の世代の演奏をじっくり聞いていました。その後は、昭和村、高滝神明の里、緑祐の郷、吉沢学園の方々の舞踊、寸劇、ダンス等々が趣向を凝らして行われ、最後に大門裕子さんの歌謡でみんなを喜ばせてくれました。

今年も和気あいあい 加茂地区体育祭

雨天のため、加茂公民館の体育館に会場を移した第54回市民体育祭。加茂地区大会は3年連続で雨に祟られました。しかし、体育館は加茂地区の住民の皆さんの熱気に包まれ、秋雨を吹き飛ばすような盛り上がりを見せていました。



玉入れ 一度はみんなやったはず

富山地区の連覇がかかる大会は初めの競技から熱心な応援や歓声が上がります。最後まで気の抜けない展開。高滝地区が徐々にリードするものの綱引きで富山地区が勝利。ここで一度は富山地区の逆転となります。勝敗は最後の地区対抗リレーの結果に委ねられました。体育館の滑る床でのリレー競技です。どんなハプニングが起こるか分からない中、高滝地区が見事リレーを勝ち抜き、再逆転での優勝を飾りました。

大会運営にあられた役員の皆様や参加された地域の皆さんのおかげで、今年も大いに盛り上がりを見せた市民体育祭でした。

(大曾根 下里山通信員)

市原商工会議所ニュース

千葉公慈さん大いに語る

10月3日（月）市原商工会議所の若手経営者で組織される青年経済人交流会に、講演会の講師として千葉公慈住職（朝生原宝林寺）をお招きしました。テレビ出演から駒沢女子大の教授、市原市の観光大使など、様々な役を兼任しており、大変お忙しい方ですが地元のことということもあり快く引き受けてくださいました。

講演タイトルは『仏教から見た「和らぎ」の文化』

日本人の和の文化は色々なものが積み重なったミルフィーユのような文化で世界的にも大変珍しく、食べ物だけでもラーメン、カレーライス、ナポリタン等、海外から得たものを独自にアレンジして積み重ねていく文化があるのです。

かの有名な十七条憲法の中に「和を以て貴しと為す」とありますが、和の心は元々狭い島国に住む日本人の潜在意識にあった上に、さらに聖徳太子の言葉として残り、現代まで温めていて育ったのだといえます。

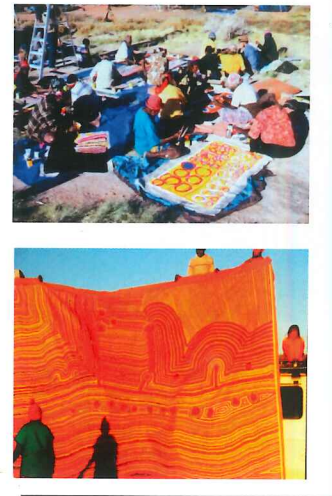
「和を以て貴しと為す」改めて和というものを考えると、学生時代には感ぜなかつた感動がありました。一言一言、丁寧に語られる千葉住職の講話に、言葉の持つ力、重みについても改めて考えさせられました。

ユーモアもたっぷりのあつという間の時間でした。

(霜崎里山通信員)

ワンロード 現代アポリジニ・アートの世界展

市原湖畔美術館では1月9日までオーストラリアの先住民であるアポリジニの作品展を行っています。砂漠を横断する1850キロにも及ぶ一本道、ワンロードを舞台に描いた絵画が中心です。11月3日にはアーティストがやって来てアポリジニ・デイとなります。編み物体験や一緒に大きな絵を描いたり、ギャラリートゥアーに参加したりできます。貴重な体験のチャンスです。



・新聞一面のノーベル文学賞はボブ・デユランにという記事には正直驚きました。むかし毎日「ハリケーン」を聴いていたことがあります。一人のファンとして心から祝福したいと思いません。

・先日、加茂公民館で南総加茂地区を中心とする里山連合へのアートミックスの説明会がありました。その中で、来年の開催期間中の受付などのボランティアをお願いできないかという話に、「ひと声かけてくれれば手分けして何とかするよ」という声がり山連合のほうから上がりました。積極的にかかわろうとする団体がここにはいくつも存在しています。

編集後記



名目の翌日、十六夜（いざよい）の月

せっかくなので始めた芸術祭を本当の意味で地域の活性化の起爆剤にできるのかどうか、来春に開催のアートミックスの成否にかかっています。

・先日、ビールと弁当を持ってトロトロ列車に乗りました。試乗会以来でしたが、あのスピードでトロトロ行くには飲み物と食べ物が必要だなと思えました。いよいよ紅葉の季節。乗る際にはお忘れなきよう。

(征矢里山通信員)

次回は1月25日発行予定です。

情報提供、取材依頼はお近くの通信員へ。メールでも受け付けます。

記事に関するご意見、お問い合わせは左記へ。

市原商工会議所

0436(22)4305 担当 河崎

Eメール kawasaki@cci.or.jp

房総・養老深谷の地酒お土産は
養老深谷駅前
角屋商店
養老深谷観光協会窓口
市原市朝生原181
TEL 0436-96-1108
FAX 0436-96-0052

愛車のある幸せ暮らし
応援します！
安全・安心
有限会社 全日本ロータスクラブ加盟店
小茶自動車
市原市石神227
TEL 0436-96-0482
FAX 0436-96-1293

皆様と共に歩む観光
7カサギ釣りの季節です
高滝湖観光企業組合
TEL 0436-98-1277